

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2010年11月20日

第 331 号

重症心身障害児者の命



つばさ静岡 施設長

山倉 慎二

つばさ静岡が開設して5年が経ちました。この5年間を振り返って強く感じることは、年々利用者さんの体が弱くなってきていることです。運動機能が低下し、食べる力が落ちて誤嚥する頻度が増え、それまで必要のなかった医療ケアが必要になるなど、やはり寄る年波には勝てません。そして昨今、突然呼吸を停止するなど、生命に関わる事態も起こるようになってきました。「死」というものは、重く、つらく、悲しく、できれば考えたくはない問題です。しかし決して避けては通れない、また忌み嫌ってはならない問題でもあります。そこで私たちは、いつか直面するであろうこの問題とどのように向き合っていくのかを考える機会を持ちました。

まず、つばさ静岡の管理職とこども病院名誉院長の北條先生、中央特別支援学校の岩見校長、開設当初から施設を支えて下さっている静岡草深教会の小出牧師を招いて、倫理委員会を開きました。その席では「幼い頃から重い障がいをもっていること」「自分の意思を表現できないこと」など重症児の特性を考慮した独自の終末期医療のあり方についての話し合いを持ちました。その中では多くの示唆に富んだ貴重な意見を聞くことができました。決して答えのある問題ではないが、この問題と真剣に向き合い、ご家族と時間を掛けて考え、ご家族の気持ちを丁寧にかけて止めることの重要性が強調されました。そして、私たち施設職員は決して親に代わることができないのではなく、親の判断がその時の思いでその場の判断として私たちと違っていても尊重されるべきであると、それに対して私たちは支えるべきであるとの発言にはただ感じ入るばかりでした。

その後、定期的に行われる職員研修でもこの問題に取り組みました。講演形式とし、浅野医師をはじめとして在宅看護を行ってきた吉田看護師、救命救急に携わってきた白鳥看護師、また社会福祉法人「十字の園」の平井理事長、さらに清水教会の高橋牧師によってそれぞれの立場からの看取りの経験をお話していただきました。討議の時間を持ったわけではありませんが、職員からは「利用者さんと過ごす時間をもっと大切にしたい」「死について考えることは生について考えることだと学んだ」「人の命の尊さはみな同じだと感じた」「今の仕事を前向きに考え直すきっかけになった」「自分の人生を見直したい」などの多くの真摯な感想が聞かれました。人の命の重みを再認識するととてもいい機会になったと考えています。

そして10月の家族の会でもこの問題を提起し、ご家族で話し合っていたたぐうことにしました。ご意見をいただいた方はまだ数名でしかありませんが、私たちはこの問題に真正面から取り組み、ご家族の気持ちを共有して、彼らにとつての最善の医療とは何かを考えていきたいと思えます。もちろん、誰もが同じひとつの結論に達することは、また価値観、倫理観、宗教観が違えば、考えも一人ひとり異なるものであると思えます。しかし、まずご家族のお気持ちをうかがった上で、職員も共通の意識を持てればと考えています。また、「死」というものを考えることで、その人にとつての将来像、生活のあり方、かわり方も変わっていくのではないのでしょうか。

障がいや重ければ重いほど命が短いことは必然とも言えます。しかし、だからといって医療的なケアだけで日々を過ごすというのであれば、生きていくことの意味を見出すことは困難です。重い障がいを持ちながらも懸命に生きている重症児がいます。人として生きている限りは、当たり前前に生命をはぐくみ、安楽な日々を過ごし、実りある人生を謳歌するべきです。そしてそれを支援するのが私たちの務めだと考えています。

食を考える

食事は生きていくうえで必要なエネルギー補給と同時に、生活の中で大きな楽しみのひとつ。今回は、先日行われた静岡県給食協会での発表された内容を報告し、食を通して感じる楽しさをお伝えします。



知的障がい者の食育

〜食楽の提案〜

三方原スクエア 白柳 友紀
支援センターわかぎ 成瀬 壽江

10月19日 ヤマハ発動機浜北工場厚生会館にて、静岡県給食協会の事例研究発表会が行なわれ、医療・福祉事業等20事業所における、日常の給食業務に関する事例が発表されました。私たちは、『知的障がい者の食育』について栄養士の立場で取り組んでいる食育について発表しました。研究の対象事業所は三方原スクエアと支援センターわかぎです。

◆ 私たち栄養士が思う

知的障がい者の食育とは

入所されている利用者の障がい像は、知能指数(IQ)で示す中度(50〜30)か重度(30〜測定困難)です。日常生活動作(ADL)は自立出来ない方がほとんどで、社会適応障がいが見られる方もいます。日常の食事提供業務が私

ち栄養士の役割の中で、今回は『食育』について注目しました。『食育』とは食育基本法(平成17年7月施行 注1)が基本です。

私たちが支援している知的障がい者の食育と考えた時、『食育』という表現は正しいのか?という疑問が沸きました。食育基本法は『食の教育』や『食を選択する力』、『食の知識の習得』を目的としている為、入所している知的障がい者には能力からみても難しい面もあります。利用者にとって『育』は?体験を通して感じるものであり、



食事の楽しさ、面白さを提供し、興味を持ってもらうことが大切だと思います。『教える』というより、楽しさを味わうことで、『食』の面白さを感じてもらえることだと考えました。朝・昼・夕の栄養補給、楽しい時間、興味のあるモノ、です。つまり、知的障がいのある利用者に『食』を感じてもらうには『楽しい』というキーワードが必要になります。『楽しい』=『食』になれば、興味をもってもらうことができ、食の支援の幅も広がると考えられます。そこで、知的障がい者の食育を『食育』ではない新しい言葉として『食楽』と提案します。

注1 食育基本法とは?

国民一人ひとりが生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図られるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身につけるための学習等の取り組みを計画的に推進するための法律。

◆ 『食楽』の実践

〜活動の場を地域で〜

三方原スクエア『ドーナツの会』1980年代よりスタートしました。きっかけは職員が三歳児教育の『親子のふれあい教室』のボランティアをしていました。その時のレクリエーショ

ンで、『ドーナツの会』の方がおやつ作りを一緒に行なっていました。このことで、小羊学園の利用者との交流がおやつ作りという形で始まりました。現在の活動内容は、毎月1回、浜松市西部公民館で利用者5名〜6名で活動しています。献立内容はココナッツ入りケーキや型抜きクッキー、マンゴークルピスゼリーなど色んなお菓子を作ります。調理の工程で利用者が関わ



る部分はそれほど多くありませんが、一緒に型に流し込んだりする作業を通して、会員の皆さんと触れ合ったり、出来上がるまでの工程を間近にして、わくわく感が持てるなど、作る楽し

を実感できます。出来上がったお菓子は、持ち帰って施設のおやつ時間にみんなで頂くので、参加できなかった利用者にとっても楽しみな日となります。このような経過もあって、ドーナツの会の日を楽しみにする利用者が増えました。外出するとても良い機会にもなり今後も引き続き交流を深めていきたいと思えます。

支援センターわかぎ『料理教室』

平成13年6月よりスタートしました。きっかけはグループホームへ移行する方が自活訓練をするために『料理を覚えたい』という希望が利用者からあり、自分達で夕食を作る形で始めました。現在の活動内容は毎月1回、近隣の公



民館で利用者7名〜8名で活動しています。料理内容は利用者でも作れるように手順、手法や材料を工夫しています。献立例としては焼きそば、ツナサラダ、みそ汁、フルーツです。時にはおやつも作ります。

料理教室の目的としては、第一に食材に触れ、作る工程を感じてもらうことで、食を感じてもらおう事です。もちろん、利用者の方々にはそれぞれ作業分担します。その為、能力によって調理器具を変えています。包丁が怖くて使えない方にはキッチンバサミで材料の下処理をします。または、はさみなどの調理器具自体が扱えない方には素手で出来る事で料理作業に参加しています。無理に与えるのではなく、自分達で出来る事、やりたい事を大切にしていきます。第二に、施設外部で活動し地域交流を図る事です。材料の購入は当日近隣のスーパーにて、利用者と一緒に商品を手に取り、選び、購入します。施設職員のみではなく、『はまきた食育の会』の方がボランティアとして一緒に参加していただいています。

『料理教室』を通して新しい楽しさを提供する事が出来たことで、積極的に参加する利用者が増えました。以前に比べ、地域の理解を得られつつあり、活動を通して色々と広がりを持つ事が出来たと思います。今後は育てる、収穫するから『食』を体験できるように計画したいと思えます。

『ドーナツの会』、『料理教室』は地域交流の良い機会にもなりました。地域の方にも知的障がい者の相互理解を得ていただけるので、今後も継続出来るように企画していきたいです。

施設の中でも

季節の行事やイベントなど『食楽』行事食の活動も行なっています。季節の行事では園内の庭にある桜の木の下で宴会をする『お花見会』、模擬店やカラオケ大会など企画が盛りだくさんの『夏まつり』、豪華なコース料理を楽しく堪能する『クリスマス祝会のスペシャルランチ』などあります。イベントとしては聖隷クリストファー大学の先生や学生さんが企画開催していただいている『コーヒーショップ啓』、厨房の調理師が目の前でまぐろ一本見事に裁く『まぐろの解体ショー』、市川園様の助成金で頂いた本格的なたこ焼き機が活躍する『たこ焼き会』があります。まだまだありますが、このような『食楽』に基づいた行事を企画開催しています。

◆今後、私たちができる『食楽』

企画、開催してきた様々の『食楽』活動は身近な『食』を通して地域交流をはかり、利用者の社会性を身につけるきっかけになり、地域への啓発活動



も期待できることが分かりました。そして、知的障がい者への『食育』とは『食の教育』ではなく、楽しむことでQOLを育むことと思っています。利用者の皆さんはこのような『食楽活動』を楽しみにしており、『食楽』行事の開催ポスター等を掲示すると、『コレいつやるの?』『何するの?』などワクワクしている様子が見られます。そして、無事行事が終了すると『楽しかった!』『またやろうね!』など反響がとても大きいことをいつも感じています。利用者の皆さんが『食楽』活動に参加する事で、施設生活のQOLを高めることができます。今後は利用者の皆さん、地域の皆さんに『食楽』の提供を継続できるようにしたいと思えます。



三方原スクエアの建物が財団法人日本産業デザイン振興会による2010年度「グッドデザイン賞」を受賞し、11月10日に表彰式が東京ミッドタウンで開催されました。日中活動の場となる支援棟と少人数での暮らしの場を目的とした独立したユニットで構成され、各々が適度な間隔を保ち、微妙なバランスによって独自性と共存性を同時に有していることが評価されました。建物の形だけでなく、これからの障害のある方の暮らしの在り方を示したことが高く評価されたのだと思います。



小羊学園のクリスマス

もう少してアドベントが始まりますね。小羊学園の各施設でもクリスマスに向けて準備が始まるころです。今年も各施設でクリスマス会が予定されています。祈りのうちに、覚えて下されば幸いです。なお、三方原スクエアのキャンドルサービスは、皆さまと一緒にクリスマスをお祝いするイベントです。

詳細については、各施設にご確認下さい。

▼三方原スクエア 12月25日(土)
キャンドルサービス12月17日(金)
遠州栄光教会三方原教会

- ▼支援センターわかぎ 12月15日(水)
- ▼つばさ静岡 12月23日(木)
- ▼小羊デイケアホーム 12月23日(木)
- ▼マルカート 12月22日(水)
- ▼ドルチェ 12月23日(木)
- ▼オリーブの樹 12月22日(水)
- ▼ぱびるす 12月24日(金)



小羊学園 公開講演会

「しょうがいしゃ施設生活の課題と地域移行」

講師：河東田 博 先生
立教大学コミュニティ福祉学部教授

日時：12月4日(土) 13:30~15:30
場所：聖隷クリストファー大学
1号館7F大教室 (入場無料)

問合せ：三方原スクエア
☎ 053-414-1833

宝石箱展

日時：12月1日(水)~12月12日(日)
10:00~17:00
会場：クリエート浜松3F
浜松市中区早馬町2-1(JR浜松駅より徒歩8分)

三方原スクエアで行っている絵画教室(講師：中道芳美先生)の作品が中心で、30点ほど展示されます。ぜひご来場ください。まるで絵がおしゃべりをしている、そんな気持ちにさせられます。決して上手な絵ではありません。でも、いい絵なのです。

編集後記

全国的に寒暖の差が激しく体調を崩しやすい時期ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか。私が勤める支援センターわかぎでも風邪気味の利用者が何人か出てくるようになりました。

11月は各施設で、行事や旅行などのイベントが数多く行われ、準備などでクリスマスを迎えてあわただしい日々が続きます。大変な思いをしても、利用者の笑顔が見られたときに、頑張っ準備したことが報われます。今年はどうなクリスマスになるのでしょうか、今から楽しみます。

いよいよ寒さが本格的に身にしみる季節です。どうぞ皆さま、お身体ご自愛下さいませ。

(F)

小羊学園を支える会

2010年度寄付金報告

10月受付分 158,440円 (19件)
累 計 2,825,352円 (217件)

小羊学園への寄付金振込み先

(口座名義)「小羊学園を支える会」
郵便振替口座 00890-4-45415
りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
静岡銀行細江支店 (普通) 043483
ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局(鈴木)
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833